



コンサート風景（おしりかじり虫の場面）

目次

巻頭 転換期  
 春夏秋冬「星の家」 NO.7  
 事務局報告  
 第11回コンサート報告  
 理事会報告  
 花王ハートポケット倶楽部地域助成を受ける



設立11年目を迎えた本年度、支える会が飛躍する節目の年とすべく理事長が豊富を語る。

巻頭 転換期

理事長 福田 雅章

今、社会的養護は大きな転換期にある。

国は社会的養護のシステムの見直しに着手し、施設中心の養護から家庭的養護の拡大へと大きく舵が切られた。養育里親や里親型のグループホーム、施設においても小規模グループケアや地域小規模施設の拡充が図られている。この方向性を明確にするため、今年、児童福祉法が大きく改正される見通しである。

こうした動きの中で、自立援助ホームも大きな転換期を迎えている。自立援助ホーム（児童自立生活援助事業）については、都道府県の果たすべき役割が明確になったほか、対象が20歳未満とされ、子ども自身が申し込むようになるなど、大きな改正がなされた。改正を踏まえて、自立援助ホームへの委託費が裁量的経費から義務的経費（いわゆる措置費）となり、運営にかかる経費が担保されることになる。ようやく自立援助ホームが社会的養護のシステムの中にしっかりと組み込まれたといえる。

これによって、「星の家」を取り巻く環境にも変化が出てくると思われる。財政面の問題やスタッフの疲弊の問題、退所者のアフターケアの問題、そして後継者の問題など、これまで山積していた課題が少しでも解決していくことを期待したいと思う。

しかし、自立援助ホームを必要とする子どもたちの状況は変わってはいない。この10年、星の家に入居を希望する子どもの数は確実に増え続けている。

わずか6人の定員。入居できる子どもたちより、入居を断らざるを得ない子どもたちのほうがはるかに多いのが実状だ。その意味では第2、第3の「星の家」も必要になっている。また、自立援助ホームがあれば施設退所者を含め義務教育終了後の子どもたちの問題が解決するわけではない。虐待などで家庭に居場所がなく浮遊する子どもは数多い。こうした子どもたちを見守るネットワークも必要である。

いずれにしても、本会は、現に星の家に入居している子どもたちの自立を支援することだけでよしとするのではなく、常に青少年を取り巻く問題点を見据えて歩いていきたいと思う。家庭という居場所を持たない多くの子どもたちに必要な支援を行っていききたいと思う。星の家はそのための拠点となっていくことを目指していきたい。



4月に入り暖かくなってきました。桜があちこちで満開になると共に、花粉も飛び交う季節ですね。今年は花粉症デビューの人が多いらしいです。

さて星の家入居者は、4月12日現在定員いっぱい6名です。昨年まであまり出入りがなかったのですが、3月になって入居が続きました。6人を紹介したいと思います。

**G(16歳)男** 入居して一年、仕事も続いています。仕事が続いていることもすごいと思いますが、あの冬の寒さの中、毎朝5時に自転車で職場へ通ったことに何より感心させられます。

**Y(19歳)男** 家庭裁判所からの委託で星の家に入居して早7ヶ月。審判を待ちながら、最近農家の仕事につきました。ご飯作りの手伝いをよくしてくれます。

**S(15歳)女** 3月で中学校を卒業したばかり。知り合いのラーメン屋さんで働き始めました。

**M(19歳)女** 星の家開設当初から星さんたちが関わってきた子です。高校を卒業して、これから進学のために働いてお金を貯めます。

**N(16歳)女** 3月の初めに一時保護で星の家に来ましたが、その後親との話し合いで、入居することになりました。働き先も見つけ、これから新しい生活が始まります。

**T(15歳)男** 自立支援施設から高校に進学しましたが、学校の寮が空くまで星の家から通うことになりました。まだ入居して1週間なので緊張していますが、徐々に慣れてきたところです。自立支援施設で、歯を磨く、毎日洗濯をする、などの生活習慣をきちんと身につけてきました。

### コンサート

3月8日に行われた「倉沢大樹エレクトーンコンサート」は、今年も沢山の方に来ていただきました。

当日は約100名のボランティアの方が駆けつけてくださり、とても大きな力になりました。それでもあまりに入場者数が多く、チケットもぎりが大混雑になってしまいました。

星の家入居者も当日のお手伝いをしてくれました。

小さい子どもが好きなSは自ら託児室を希望し、預かった子たちの遊び相手になってくれました。

おしりかじり虫と一緒に舞台上で踊っていた、あの猫も実は入居者の子だったんですよ。(本人が恥ずかしいらしいので誰かは言いません)



縫ぐるみ猫の中身は入居者!!

また、司会を担当してくれたのは星の家OBでした。緊張しながらも無事大役を務めてくれました。

たった一日で終わってしまうのがもったいないくらいの、素晴らしいコンサートになりました!! チケットを購入下さった方、ボランティアの方、本当にありがとうございました。

### OB

星の家で生活をしていると、どうしても良くない部分の方が目に付いてしまいます。それなのにOBという立場になると、「この年で働いているなんてエライ!一人暮らししているんだからスゴイ!」と印象が変わる子がいます。

先日「どうも～」と言って玄関に入って来た元入居者のT(17歳)がそうです。台所に立っていた私の隣に並んだ時の表情がとても自然でした。入居していた頃はいつも目をギラギラさせていて、大人を寄せ付けない雰囲気を持っていました。

生活も仕事もうまくいなくなり星の家を飛び出した1年前。その後警察に捕まり、鑑別所で星さんに今の就職先を紹介してもらいました。顔つきが変わってきたのは年齢や環境が変わったこともあるかもしれませんが。

ただ、一度星の家を出たことで、今度は帰る場所になったんだな、居場所になったんだなと最近になって感じます。お正月を星の家で過ごし、仕事始まりの日に「何も無い正月だったな～」と帰っていききました。



大きなイベントはなくても、星の家を寝正月して過ごせる場所にしたのは、Tの力だと思います。昨年行けなかったバーベキューの写真を、

「今年は俺も連れてってくれ～」というTがすごく素直に感じられるようになりました。(Y.Y)

## 第 11 回コンサートの報告とお礼

第 11 回目を迎えたコンサートは、3 月 8 日土曜日の夕刻、宇都宮市文化会館大ホールで、佐藤栄一宇都宮市長をお迎えし開催しました。今回はチケットご来場者が 1,842 名、満 3 歳までは無料でしたので、2,000 名収容の会場は満員御礼の状態でした。お蔭様で収益も伸び 211 万円と過去最高を記録しました。

さて、今回のコンサートの目玉は、何と言っても第一部の倉沢大樹さんをリーダーとする JAZZ セッションでした。倉沢大樹さんはエレクトーンでは日本のトップミュージシャンで有りながら、ジャズピアニストとしても宇都宮のジャズライブハウスを中心に活躍しております。ジャズの街宇都宮を意識しての企画で、栃木県出身あるいは在住のジャズミュージシャンに無料出演をお願いしたところ、趣旨に賛同していただき、快く受けていただけ今回実現したものです。

特に野中英士さん(ベース)、そして高橋幹夫さん(ドラム)は、日本はもとより海外でも活躍している方です。また、藤原武人さん(サクソ)や橋本珠莉さん(ボーカル)そしておなじみの島田絵里さん(フルート)も宇都宮はもとより都内など県外のジャズライブハウスでも活躍しておられる方々です。

この方達が、CM など聞きなれたスタンダードジャズばかりを 8 曲熱演していただいたのですが、あまりジャズになじみの薄い方達も感動されたよう。

第二部は、前回と同じメンバーの倉沢大樹さんのエレクトーンと浅香薫子さん(声楽)と島田絵里さん(フルート)が熱演。浅香さんが「ハバナ」などカルメ



JAZZ 演奏風景

ン 3 曲を熱唱し観客を魅了。デズニーと運動会メドレー、そしておしりかじり虫(合唱)には子供達も大喜びの様子。8 曲を演奏しアンコールのアメージンググレイスで幕。無事終了いたしました。

103 名の当日ボランティアの方々を始め、協賛の HAYAP(ポスターチラシ)、(有)ハーモニー(音響照明)、後援・マスコミの各社、チケット販売や広告掲載にご協力いただいた皆様方等々に対しまして、心から感謝お礼申し上げます。

## 理事会報告

今年に入り 1 月 19 日と 3 月 29 日に理事会を開催しました。

1 月の理事会は、昨年お理事会議論を踏まえての平成 19 年度資金調達に加えて、支える会の将来あるべき姿を議論。このままでの活動ではジリ費に進むことが予想され、「星の家」を取り巻く青少年の問題と解決策について多くの意見が出された。

また、3 月の理事会では、平成 19 年度の補正予算、平成 20 年度当初予算案と事業計画案に加えて、平成 20 年度の事業計画の重点目標とすべく、今までの議論を集約、支える会活動の方向性を示すべく将来のあるべき姿について検討を行いました。

結果、平成 19 年度の補正予算では、収入は収益事業の増収見込み、支出はステップハウスの解約支出減などを見込んだ補正を承認。ようやく 2 年連続の赤字から脱却できる見通しです。

また、支える会の将来のあるべき姿については、平成 20 年度の事業計画案に盛り込み、援助の拠点づくり、施設退去者などのための居場所づくり、ネットワークづくりを重点目標として総会に提案する予定です。

## 花 王ハートポケット倶楽部地域助成(栃木地区)を受ける

3 月 9 日日曜日、宇都宮市民活動サポートセンターにて同倶楽部から 10 万円の助成金を頂きました。この助成金は、発足して間もない「とちぎコミュニティファンド」の第一号となる冠ファンドで、メイン助成対象 3 団体の一つとして選ばれました。

とちぎコミュニティファンドは、社会に役立つという市民の力・企業の気持ちをボランティア市民活動に橋渡しするために設立した、物品や資金を地域内で循環させる仕組み(基金)です。

今回ファンド第一号となった花王ハートポケット倶楽部地域助成(栃木地区)は、花王(株)の社員参加型寄付プログラムで、栃木県に事業場のある企業として、事業場の立地地域で活動する市民団体へ助成を行い、地域に根付いた市民活動を応援していこうと、社員がお金を出し合い、社員投票によって助成したい団体を選ぶものです。今回本会はかなりの票を得たと聞いております。本会活動が社会貢献度の高いものとして評価されたのだと思います。花王(株)社員の皆様に心より感謝し、お礼申し上げます。

寄

## 付・会費納入者

敬称略・順位不同

平成20年1月～20年3月まで

(個人情報保護の観点から、ウェブ版では個人名は割愛させていただきます)

### 編集後記

待ちに待った春が訪れました～！今年、宇都宮市の桜の開花宣言は、昨年より2日遅い3月28日、平年に比べ6日早く、しかも1953年の統計開始以来、7番目の早さだという。やはり地球温暖化が、ジワリと影響してきているのかな？とはいってもお花見ができることは花より団子(酒!)で嬉しいで～す(^0^)



さて、今年度には児童福祉法が改正、「星の家」の活動によろやく陽が当たりそうです。これも10年もの長きに渡り皆様の支えがあったからこそで、今後も引き続きご支援をお願いします。(TT)

#### 【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会 口座番号：00140-3-366972

\*通信欄に会員種別等及び金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”とご記入ください。

\*\*\*「会費等の金融機関引落し」のご利用をお勧めしております!\*\*\*

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会  
発行日/ 2008年4月15日  
発行責任者/ 福田雅章  
編集責任者/ 曾根俊彦

所在地/ 321-0963 栃木県宇都宮市南大通り4-2-18  
電話/ 028-651-0161 FAX/ 028-651-0162  
IP 電話/ 050-3437-2401  
Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp  
HP/ <http://www2.ucatv.ne.jp/~sasaeru.snow/>